

令和5年度 第1回徳島県発達障がい者支援地域協議会 議事録

1 日 時

令和5年8月10日（木）

午後1時30分から午後3時まで

2 開催方式

会場及びZoomによるハイブリッド型

3 会 場

発達障がい者総合支援センター 3階 多目的室

4 出席者

【委員】21名中14名

・会場出席

橋本俊顕、岡本訓代、奥田紀久子、島優子、大西克和、吉野育也、
都築吉則、小川和子

・Web出席

櫻木章司、大谷博俊、前田宏治、中川美幸、松家敬子、倉橋誠一

【事務局】

・会場出席

発達障がい者総合支援センター、障がい福祉課、発達障がい者地域支援マネジャー

・Web出席

教育委員会特別支援教育課、精神保健福祉センター、
発達障がい者地域支援マネジャー

5 会議次第

i 開会

ii 挨拶

iii 議事

(1) 令和4年度発達障がい関連施策の実施状況について

(2) 令和5年度発達障がい関連施策の計画について

(3) その他

会長 議事 1「令和4年度発達障がい関連施策の実施状況について」発達障がい者総合支援センター、教育委員会の順に説明をお願いします。

事務局 資料1-1について説明。

事務局 資料1-2について説明。

会長 ただいまの説明について、委員の皆様から、御意見や御質問をお願いします。まず、本日欠席の委員から御意見を頂いておりますので、事務局から紹介してください。

事務局 御報告させていただきます。「美波町では今年度から開始しているハナミズキ発達相談などを通じて切れ目のないよう支援していますが、発達特性のある方の対応に苦慮している相談もあります。町の相談や関係機関に繋がり、手帳の取得や年金につながったケースもあります。また職場での対応が困難なケースもあります。発達特性との対応と重なり、対応が困難になっているケースもあるので、センターには継続して出張での相談を続けてほしいと思います。」との御意見をいただきました。

会長 ありがとうございます。それでは、あらためて御意見、御質問はございませんでしょうか。

委員 発達障がい者総合支援センターの発達支援の心理士による心理判定、発達検査の実績が減っていると思いますが、相談と同じようにコロナの影響があったのでしょうか。

事務局 個別相談の件数でもコロナの影響を申し上げましたが、心理判定についてもまずは相談に来て、アセスメントをしたい時に行うという基本的な流れがありますので、相談件数が減ったことと関連しております。

委員 改めて色々な施策があることがわかりました。一方で、こういったイベントや活動が行われているのかということを知らない人が、圧倒的に多いので勿体無いと思っています。センターのウェブサイトは県のコンテンツマネジメントの中に入っていますので、情報がわかりにくい。ビジュアル的にわかりづらいです。仕組み上、大きな制約を受けていると思いますが、うちの学生にハナミズキを紹介して自分で調べるように言っても情報を探すことができません。可能であれば双方向に情報を受けられるような仕組みがあればと思っています。X (Twitter) で情報発信をしていることは好ましいです。今は何かあればスマホで検索するので、その意味では利用しやすいと思います。最後にダメ元で言い

ますが、岡山県の自閉症協会は応援ソングを作って YouTube で発信していますが、そんなことは徳島県ではできないでしょうか。場合によっては大学も協力できるのではと思いますので、御検討いただければと思います。

事務局

広報啓発の強化として貴重な御意見をいただいております。センターの HP は御指摘のように情報量も少なく、基本的なことがワンストップで見えるのが理想ですが、今はそれが現状であります。まずは出来ることを速やかにということで、スマホをお持ちの方が多いため、X (Twitter)、Facebook、LINE、YouTube 等、SNS はプッシュ式で広報できますし、貴重な媒体と思っております。X (Twitter) で情報発信していますが十分とは言えないかもしれません。今年度は LINE 等でも御案内をしているところです。YouTube には徳島チャンネルがあります。当センターでは様々な研修を実施しておりますが、時間的にリアルタイムで参加しにくい方に対しても、オンデマンド形式で発信しているところです。発信する内容によって媒体も変わって来るとは思いますが、今年度は特にすぐに見られるものとして X (Twitter) や LINE 等、徳島県公式のもので発信していきたいと思っております。応援ソングも面白いと思っておりますので、楽しいものというか気軽に扱われるものということで、四国大学にも学科があるかと思っておりますが、連携できることがあるか御相談させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

委員

徳島県の自閉症協会は応援ソングはありません。何かあればよろしく申し上げます。1 ページの家族サポート教室についてですが、家族を対象にカウンセリングの中で強度行動障がいという説明もありますが実人数で 11 名。5 ページの強度行動障がい現場派遣が 3 回となっておりますが、人数的にもっと強度行動障がいの方はいると思っております。それにも関わらず少ない人数というのはどうなのかなど。希望者がきたら対応するという事なのか、何か他の方法で見つけた方をフォローしているのかを教えていただけたらと思っております。今、強度行動障がいのある家族の預け先がないと悩まれている方が多いので、受入れ先が増えていくと良いと思っております。今すぐ分からなくても構わないので教えてほしいと思っております。

事務局

強度行動障がいについては、全国的な課題であるという認識を持っています。いわゆる支援者の支援というものを強力に進める必要があると考えています。5 ページについては、元々は発達凸凹サポートチームから始まった現場派遣事業を、令和 4 年度に強度行動障がいメニューに加えて始めたところです。具体的な個別支援はすぐに始められないので、3 回というのは事例検討会の回数で、南部 I 圏域で試行的に進めているところです。また今年度は強度行動障がいだけでなく、幅広く困難事例をという事で進めているところです。人材育成というところが大事なため、来年度に向け体制づくりも検討しながら、御意見もお伺いし進めていく予定です。

現場派遣事業だけでなく、個別の機関コンサルテーションということで個別の案件についても、それぞれの関係の方に御協力いただきながら実施しているところです。

また家族サポート教室については、どの事業もそうですが、コロナの影響があるのと、継続的な御参加ということがあります。

会長 強度行動障がいについては全国的に人材育成という事で、各県で講義や講演会が開催されておりますが、統計的には我が国で 8,000 人ほどの強度行動障がいの方がいると言われております。実際にはもっといると思いますが、徳島県では受入れ施設は 0 なのではないでしょうか。

委員 多くの指導者が研修は受講していると思いますが、実際の受け入れには繋がっていないところが残念だと思います。少しでも預かってくれたら親も少し休めるので。疲弊の状態が尋常でない方もいらっしゃいます。研修を受講された方と受け入れについてのギャップがあると思います。

会長 本来は受け入れの施設についてしっかりした整備が必要なのだと思いますが、受け入れについて非常に人手がかかるのがネックとなっている部分かと思います。私もそういったケースがありまして、学校と、私、事業所何ヶ所か関わって連絡協議会を開いています。それで強く求めて事業所の方に無理して関わっていただいているところもあります。そのレベルで止まってはいけないとは思いますが、実際そういうところもあると思います。精神科の病院にお願いすることもあるかと思いますが。その辺りいかがでしょうか。

委員 病院につなげた方でヤングケアラーの方もいます。何件か自殺を思っている人もいますが、病院には行きたくないと心を閉ざしてしまう人もいます。それで、親御さんが困られることもあります。訪問看護で主治医がいてつなげていますが、中には医師と折り合いが悪い人もいます。自分達だけで相談を受けると不安になる時もあります。一言一言の言い方で色んな捉え方がありますので。ハナミズキやアイリスにもいつでも相談できるということが勉強になりました。

委員 強度行動障がいの対応は難しいです。病院で受けるにしても、緊急避難的な形で受けることになると思います。関係機関と連携が取れて、退院の目処が協議ができるような、どんな状態になれば退院させるという事を共有しておく仕組みが必要なのかなと考えています。

会長 できるだけ地域連携協議会等に出していただいて、多数の関係者の中で協議をすることが求められていると思います。

会長 ほかに御意見ございませんでしょうか。なければ、次の議題に移りたいと思

います。事務局から議事2「令和5年度発達障がい関連施策の計画について」説明をお願いします。

事務局 資料2-1について説明。

事務局 資料2-2について説明。

会長 ただ今の説明について、御意見、御質問をお願いします。

委員 地域の子育て・にこにこサポート事業について、ほめ方講座という説明がありました。地域の方にどのような形で啓発されるのか。またどのような役職の方が講師をされるのか教えていただきたいと思います。

事務局 地域の子育て・にこにこサポート事業は、4つの施設からなる発達障がい者総合支援ゾーンの中で連携を強化して、やれることをやっていこうという中の1つの事業で、乳児院と連携をさせていただく予定です。発達障がいについて正しい理解をしていただくことが一つ。子育ての不安やストレスを軽減し、少しでも楽しく子育てをして欲しいということで、趣旨としては2つ。内容としては3つあります。一つ目はほめ方講座、二つ目はペアレントメンターによる子育て体験談、三つ目としては子育てアドバイス。個別に御質問や御相談を受けることとしております。

委員 それぞれ魅力的な事業がありますが、今年度どういった事業が実施されるのか一覧のような資料というか、鳥瞰的に相談あるいは研修というものがいつ行われるかがわかる総合的なものは準備しているのでしょうか。

事務局 確かに実施する我々も進捗管理は大事ですし、教育委員会との調整も必要であると考えています。当センター内でいつ頃実施するなど進捗管理をしているものはありますが、関係機関との共有も検討しながら効果的に事業を実施していきたいと思います。教員が対象の事業もありますので、いつ頃の実施がよいかなども相談しながら、より連携を深めていきたいと思っています。

委員 一覧の資料がありましたら、巡回相談の先生が現場で相談をしながら、必要に応じて担任の先生や生徒、保護者など、あるいは現場で相談に来られた方に対して、そのニーズをそれぞれの担当が把握をしてお勧めできる、現場で相談員が提供できる資料となれば良いと感じました。また御検討いただければと思います。

事務局 確かに主催する側というより、受ける側の当事者の方や保護者の方、支援者の方に情報を早くお知らせして、効果的に事業を実施できるよう検討してまい

ります。ありがとうございました。

委員 一つ一つの事業で評価のためアンケートを実施していると思いますが、アンケート結果で、例えばどういう媒体を見て参加したのかというものが分かれば、それを活かせると思います。次の計画への方向性が見えてくるとと思いますので、良い評価があったものは、実施状況の中に入れていただければと思います。

事務局 貴重な御意見、ありがとうございます。

委員 幼児、保護者への手厚い事業をしているとお聞きしてありがたいと思います。ペアレント・メンターの事業や、保護者の方、職員向けのペアレントプログラムなどありがたいです。県の教育委員会もポジティブ行動支援など、勉強させていただいておりますが、活用できるように各園に広めていけたらと思います。

会長 他になれば、議事2については、以上にしたいと思います。
それでは、議事3「その他」について、何かございますでしょうか。

委員 教育委員会で、「ともにまなぶ」高校生活応援事業ということで、高校の方で特別な支援を必要とする生徒に対して、こういった支援をしているということが知れてありがたいと思いました。発達障がいを持つ子が、高校以降には普通学級に入る事が多いと思いますので、中学校から送り出す側としては心配している部分があります。学力は高くてもコミュニケーションが苦手な生徒もいますので、こうした事業を広げていってもらえたらと思います。

会長 たくさんの御意見ありがとうございました。以上で、本日の議事を終了させていただきます。委員の皆様方からの御意見等を踏まえて、今後の発達障がい児者に対する支援施策に反映していただくようお願いいたします。